

「名古屋城三の丸地区まちづくり構想(案)」に対する 市民意見の概要及び市の考え方

「名古屋城三の丸地区まちづくり構想(案)」に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございます。みなさまからいただきましたご意見の概要と、それに対する市の考え方を公表いたします。

なお、ご意見については内容を要約し、内容により分割するなどして掲載していますので、ご了承ください。

令和8年3月
名古屋市

【市民意見募集の実施結果】

1. 期間

令和7年12月19日（金）～令和8年1月27日（火）

2. 提出状況

提出者数：16人 意見件数：61件

3. 提出方法

提出方法	提出者数
郵送	0
ファックス	2
電子メール	12
持参等	2
合計	16

4. 意見の内訳

項目	意見
総論	10件
三の丸ってどんな場所？	0件
地区の歴史	0件
地区の文化など	0件
現状と課題	0件
なぜいま三の丸でまちづくり？	1件
三の丸を取り巻く状況	1件
周辺から見た三の丸	0件
三の丸への期待	0件
三の丸のまちづくりとは	0件
まちづくりの意義	0件

	まちづくりの基本的な考え方	0件
	まちづくりの理念	0件
めざすまち		35件
	まちづくりの基本方針	32件
	将来イメージ	3件
めざすまちの実現に向けて		5件
	まちづくりの進め方	1件
	まちづくりの組織体制	4件
	ロードマップ	0件
その他		10件

市民意見の概要及び市の考え方

《総論》

総論 10 件

〈市民意見の概要〉

- ・「名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）— 進化と変化で官庁街を “ ひらく ” —」について、総論では賛成。
- ・整備時期の目標の明示がない・プランが悠長でスピード感がない。
- ・「構想」を出しているにもかかわらず、市として「調整役」の意識・決意が薄い。
- ・内容が「総花的」で「構想」自体が現状の認識の羅列、話題にあがっている最新の“潮流”の列挙で「具体的にどう進めていくのか」「どこをどう、変えていくのか」「いつまでに、何を進めていくのか」が何も描かれていない。将来像の具体策が極めて乏しい。一刻も早く「実施計画」などに格上げし、策定すべき。
- ・「アクションプラン（短期）」および「ロードマップ」があるが、あまりにも内容が乏しい。何より、あまりにも悠長で、テンポが遅すぎる。すでに「半数が築 50 年」と認識しているにもかかわらずこれでは、再整備する気がないとしか思えない。一刻も早く、各関係機関に呼びかけ、それぞれが個々に再整備を進め始めてしまう前に「調整会議の立ち上げ」や「整備方針」を策定すべき。
- ・整備計画が「長期（トータルで30年規模）」であるのはあまりにも遅すぎる。「構想」の中に「2050年には『築80年』」とあるが、80年では老朽化し過ぎで、論外である。大幅に早めて、整備を推し進めるべき。
- ・エリアにあるもののほとんどが「国・県・市の機関」など、きわめて公共性が高いものである点は、再整備をしやすい利点であることから一刻も早く「方針」を示すべき。
- ・構想案 P33～37、P42～43 のイラストは実に魅力的なものである。しかし、名古屋市はこれまでも、名古屋駅前や金山、栄地区、熱田地区など「イメージ図」を描くことには熱心だが、具体的な取り組みに一向に結び付いていない。しかも、出来上がった結果は多くの場合、イメージ図や完成予想図よりも「縮小」されてばかり。市民としては、市民にはできない名古屋市＝行政の調整力、イニシアチブを期待しているものであり実現力が問われていると認識し、一刻も早く、実現へ向けたスケジュールを組んでほしい。
- ・名古屋城三の丸地区まちづくりを早く具体化させることが名古屋市が行うべきことではないか。
- ・「構想」は全てにおいて具体化が乏しい。
- ・たとえば「文化・祭り・ものづくりのルーツ」「歴史や文化を体感しづらい」ということに対しては「茶の湯体験」「生け花体験」「着付け・着物体験」「和菓子・駄菓子体験」「有松絞りの体験」「山車の展示」など、さまざまな名古屋ならではの体験コンテンツ、人力車、名古屋めし、伝統的な武家屋敷や町家の再現ゾーンなどの設定が考えられる。
- ・福岡市などは「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」など、うまいキャッチフレーズとともに、自ら音頭取りをきちんと行っている印象を演出している。そして、実際にそれなりに進めることができている。「三の丸」については、分かりやすいキャッチフレーズも付いていない。これでは他都市との「都市間競争」で遅れを取るだけ。それは世界からも遅れを取るこ

とになり、損失です。実施が伴わないと何の意味もありません、具体策を進めるよう、『構想』だけでなく、早く『計画』として関係者との調整・協議を始めるべき。

- ・堀川と大津通・本町通・久屋大通に囲まれているというのは、ともすれば「孤立」「陸の孤島」になりかねない。「面的な広がり」を感じられるよう、浅間町側や「文化のみち」「名城公園エリア（IGアリーナ等）」「栄エリア」「伏見エリア」とシームレスなつながりを意識して計画してほしい。
- ・構想には先行事例等も踏まえたプランの実現性評価の欠如、市内他地域とのカニバリゼーションの懸念がある。
- ・「三の丸」をどうしたいのか、の前に、「名古屋市」として三の丸をどう活用できるのか？の視座の重要性を感じる。
- ・「三の丸エリア」の活用こそが、次世代の名古屋市を牽引する。
- ・名古屋の都市開発、特に久屋大通公園や名城公園などもいろいろなゾーニングと活気・活力にぎわいなどの行政ポエムのオンパレードでした。三の丸構想案は更にもりだくさんで何がしたいのか？わかりにくい。

〈市の考え方〉

- ・名古屋城三の丸地区まちづくり構想は、当地区の役割や位置づけを整理し、社会経済・環境の潮流や、まちづくりにおいて何を大切にし、どのように進めていくのか、さらに、概ね30年後の三の丸はこうありたいという姿を示しており、周辺地区とのつながりを意識した長期（概ね30年）を見据えたまちづくりを進める第一歩として、策定いたします。
- ・過去から受け継いだ守るべき資産を多数有しているなど、当地区ならではの強みを活かし、当地区だからこそ期待される未来に応え、当地区のまちづくりをあいち・なごやの飛躍へとつなげていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。
- ・具体的なまちづくりの内容については、今回皆様からいただいたご意見も参考にしながら検討を進め、関係者との調整・協議を行いながら、めざすまちに向けた具体的な取組みを定めるプランを策定いたします。
- ・めざすまちの実現に向けてできることから着実に取組み段階的に進めていくとともに、進捗状況に応じて前倒しも視野に入れながら、エリア一丸となって推進していきたいと考えております。

《なぜ いま 三の丸でまちづくり？》

三の丸を取り巻く状況 1件

〈市民意見の概要〉

- ・水資源機構付近に、名古屋城博物館を造る構想もあるので、抱き合わせで検討してほしい。

〈市の考え方〉

- ・関連する個別計画とも連携・整合を図りながらまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

《めざすまち》

まちづくりの基本方針 32件

〈市民意見の概要〉

- ・歴史的価値の継承と防災機能の強化という方向性に強く賛同します。
 - ・本地区がリニア時代のあいち・なごやを支える強靱な都市となるため、「地域共生型高効率データセンター」を誘致・整備することを提案いたします。
 - ・建替えを契機としたインフラ連携モデルを具体的な施策として、地域エネルギーを融通し合う共生モデルを提案します。
 - ・通信の要衝である既存資産のポテンシャルを最大限に活かし、エネルギーとデジタルが融合した「地域共生型高効率データセンター」を構想に盛り込むことで、三の丸地区が歴史と最先端技術の調和する未来都市となることを期待します。
-
- ・「めざすまち」の中で「現状の施設」の将来像の具体がない。現状存在している官庁・民間施設などはどうなっていくのか。たとえば名城公園地区や“三の丸3丁目・4丁目”地域も含めて移転地を提案する可能性や、集約化、あるいは、むしろ“新たな施設の誘致”——たとえば「名古屋に中央官庁・本庁を誘致する」であるとか、「名古屋に国立美術館（あるいは、国立博物館）等を誘致する」等、場合によっては「副首都機能としての移転」もできるような発想の余地を残すべき。
-
- ・建物を高度化する場合、制限をどこまで認めるのか。ホテルや公園・緑地の割合はどうするのか。商業施設やホテル・MICE施設の選定はどのように決めるのか。「官庁街としての休日のにぎわい創出」はどのように両立するのか。何も例示や具体的なイメージが示されていない。
 - ・休日は閑散とし、平日でも用事がない限り近づくことがないエリアというのは、市街地の中心街区としてあまりにももったいない。「官庁の中に交流エリア、眺望エリア、吹き抜けやイベントゾーンを設ける、飲食・買い物施設を入れる（特に1階部分）」等の工夫を指針として示すべき。また、各施設に協力を求め、設計段階から統一感、調和の取れた再開発となるようにしてほしい。
-
- ・全ての案に、全国には“いいお手本”がある。しっかりと分析し、見習えるところは大いに参考にして取り入れるべき。一度造れば、それなりの年月使用するのには明らかなのだから、初期投資をケチるべきでない。
-
- ・少子高齢社会の中でもうこれ以上イベントや商業スペースさらににぎわいの創出というのは無理筋な問題設定であると思います。官庁街という機能と外堀りにある森は栄地区のカラスの寝床（巣）でもありますしヒメボタルの生息する地域でもあります。自然を活かして防災に特化した地区として名古屋の中心に位置づけしてもらいたいです。
-
- ・名古屋には観光スポットが多くありますが、周遊性や滞在性が不足しているスポットが多く、それが「観光地はない」という風潮につながっていると感じています。三の丸地区は名古屋を代表する観光スポットである名古屋城に隣接していますので、「三の丸地区まちづくり」によって名古屋城エリアの周遊性、滞在性が高まり、市民が誇れる観光地になることを期待します。
 - ・三の丸地区は名古屋城エリアに隣接しているだけでなく、地区内に重要文化財である名古屋市役所本庁舎および愛知県庁本庁舎などの文化財があり、周辺には「文化の道」や「ものづくり文化のみち」、四間道町並み保存地区、Hisaya-odori Park、名城公園、堀川などが立地しています。こうした立地状況を踏まえると、三の丸地区の建造物や街路空間、広場などのデザイン

は周辺エリアと調和させていく必要があると思います。

- ・現状の「公団団地のような見た目の、古い建物群」が連なる状況は速やかに無くしていくべき。伝統的な名古屋城などに似合うようなデザインも可能だと思われるし、新旧のコントラスト・調和という考え方もある。方針・指針を関係者と探るべき。
- ・新たに建て替える建物については、ただの官庁街だというイメージから脱却できるよう、無機質な外観にならないようにしてほしいです。
- ・名古屋城三の丸という歴史的な文脈や官庁街として発展した経緯を背景とした、秩序ある街並みもまた、三の丸地区の魅力の1つであると思います。現在、三の丸地区では名古屋第4地方合同庁舎が建設されており、長期的には他の官庁施設や民間施設の整備が行われることと予想されます。この動きに先立ち、街並みの保護ないし洗練を目的として、新規の建築ルールの制定や助成制度の整備など、既存の枠組みではない新たな施策を講じることは勘案していますか。
- ・観光と歴史を重視した再整備を重点的に進めて欲しい。特に以下の点について検討し、構想に反映してほしい。
 - ・外堀（石垣、土塁）の復元的整備
 - ・久屋大通り公園と三の丸、名古屋城との間を観光客が自然に流れる導線の形成
 - ・大津通り、三の丸庭園前の通り、本町通りを観光し、回遊できるように整備する
 - ・三の丸全体の外構デザイン（舗装・街路樹・サイン・照明）の統一
 - ・歴史的景観資源となっている市役所、県庁の建物前面の駐車スペース等の公開緑地化
 - ・平面駐車場を地下駐車場へ整備（個別整備ではなく防災機能も有した共用の大規模地下駐車場の設置がよい）、地上部分は緑地化する
 - ・行政機関以外の民間のビル、施設は西側の端（伏見通り側）に移転させる
 - ・東照宮、那古野神社を本町通り筋、名古屋城前に移転させ、周辺を緑地化する
- ・三の丸地区は、かつて尾張藩の家老や上級藩士の上屋敷、三之丸天王社や東照宮、御屋形などが立ち並んでいたところ。その間の大名小路・中小路や多くの筋を基に現在の区画と道路になっているが、旧小路や筋名は是非表示をしてほしい。或いは江戸時代の全体が分かる説明板を設置してほしい。
- ・家老の屋敷跡には、絵図や写真付きの説明看板を設けて、かつての様子を分かり易く表示、名古屋城の一角であることを明示、歴史の深みを知ってもらわなければならない。
- ・名古屋市民がまず理解し、胸を張り説明をできるようにすべきです。誇りを持たないと広がりません。名古屋城が広大で日本トップクラスの城を国内外の観光客に伝えるように配慮してほしい。
- ・江戸城、駿府城、彦根城、大坂城、姫路城などの事例も参考に、かつての名古屋城三の丸地区をせめて看板などで分かるようにしてほしい。
- ・天王坊後園は名古屋城築城前から残るとされる遺跡であるが、現在はそれを伝える案内もなく放置されたまま。無駄な草木を除き、可能であれば水景も再現し、庭園として再生させる。
- ・北の休憩所、南の名古屋城博物館双方に庭園を鑑賞できるスペースを設ける。
- ・交通アクセスの整備が重要です。地下鉄「名古屋城・浅間町」間約1.4km、徒歩東西異動に20分以上を要します。裁判所迄はどちらからでも700mの距離が有り、市バスの利用はスムーズではありません。東西移動の市バスは外堀通りと国道19号線で運行されて居ますが、地下鉄・

バス停の接続に難があります。新旧市役所庁舎前の「基幹バス停」を起点に官庁街内循環ルート整備が理想です。「名古屋駅・名古屋城・栄・大須の新交通システム」導入に組み込むか、独自循環ルート確保を提案します。

・大津通や出来町通などは幅が広すぎてとてもウォークアブルとはいえないため、車線を削減してほしいです。

・この地域は 1930 年代に名古屋市役所・愛知県庁が出来て、戦後に官庁街として整備された経緯があり、日本における官庁建築の歴史があります。なので、新しい建物を建てるのではなく、既存の建物を残してほしいと思います。建物の改築は、必要最小限にとどめてほしい。ただし、東京一極集中の是正のための機能分担を名古屋は担わなければいけないと考えています。その時に三の丸の官庁街を拡張するのも必要です。

・金シャチ横丁のある区画は、江戸時代まで東照宮と亀尾山天神坊（那古野神社）のあった所です。天王坊の庭園は古田織部の作と伝え、現在も金シャチ横丁南側に、立ち入り禁止の小高い丘が残っています。敷地の大部分は農林総合庁舎と水資源機構の建物で占められていますが、それを取壊したら広い敷地が出来ます。詳細な発掘調査の後、そこに天王坊庭園を復元し、東照宮を再建させたらと思います。名古屋城の新しい名所になるのではないのでしょうか。

・外堀通りに名古屋東照宮がありますが、それも空襲で焼失し、全く別物になっている。元は三の丸の東海農政局辺りに三の丸東照宮という立派な社殿があって、その古写真と模型が残っていると聞いている。これを機にその場所へ復元再建したらどうかと思います。

・三の丸庭園は、明治に名古屋城内の庭園にあった石などを移設して作られました。庭園の専門家からも高い評価を受けた文化財級の庭園です。庭園は賓客が無い時は自由に出入りできますが、知られていないせいか見学者もまばらです。一方名古屋市公館はバブル時代の 1989 年に建てられ、庭園を眺めながら賓客をもてなすよう作られています。あの場所に公館があるのは、市民を庭園から遠ざけている気がしています。市公館は廃止して取壊し、庭園を有料でもいいから広く公開してもらいたいと思います。

・「名古屋市役所」並びに「愛知県庁」については、宿泊施設化などを検討すべきではない。旧・横浜市役所などの例のように、施設を用途変更している例はあるが、施設は施設として活用されてこそ意味がある。「ものづくりの街・名古屋」として、重要文化財を「生きた施設」として利活用を続けるべきです。

・三の丸天王社例祭や東照宮祭の際は、庶民が三の丸への入場を許された貴重な祭礼、市中心部に残る九両の山車を集めた祭礼で、三の丸地区への乗り入れも一考の価値があると思います。

・市役所や県庁について「眺めるもの」としての位置付けしか示されていない。どう生かすのか、どうしていくのかが何も語られていない。

・市役所・県庁は移転する。

・名古屋城天守閣の視認性の悪さや広場空間の不足など、文化財を落ち着いて眺めることができる環境ではないことがエリアとしての印象の欠如や魅力の毀損を招く要因であるというのはその通りだと思います。是非「三の丸」を、ひいては「なごや」を体感できる空間を整備してほしいです。

・名古屋と愛知のそれぞれの地域が持つ歴史的背景の関係上、「なごやらしさ」と「あいちらしき」はそれぞれ異なるものが想像されうるようにも思われます。「なごや・あいちらしき」が示すものを明示しておくことが望ましいと思います。

- ・金シャチ横丁義直ゾーン南にある大銀杏も、天王坊の御神木と伝わるもの。樹齢などをしっかり調べ、安全を確保した上で御神木として祀る。
- ・天王坊は若き織田信長が学問を学び、幼き徳川家康(竹千代)が幽閉されていたと伝わる場所。信長・家康ゆかりの地である事を、展示やみやげ物を通して広くアピールする。
- ・一般市民にとって、「本庁、県、国の地方局」のお役所は、関りが稀薄。市民－官庁の距離感を縮める事が最も重要と感じます。「必要に迫られての来庁では無く、諸庁舎の存在を間接的に認識してもらう為」市民が官庁街との結び付きを深める「工夫・仕掛け」が必要です。老朽化した庁舎の建て替え再整備の実質的機能構築に加え、プラス「テーマパーク的」要素を持ち合わせた空間造りを提案します。
- ・名古屋鉄道所有の部分を含め、外堀を埋め立てる等の再開発は望みません。経費的に多大を要しますが、収益を得る為の乱開発は御免です。石垣を修繕して歴史的保全を希望・提案します。
- ・外堀を歩けるようにするなど、外堀を観光資源として有効活用してはどうか。
- ・構想 p33-37、p42-43 に載っている将来の三の丸のイメージ画像が凄くいい感じなので、ぜひそれを目指してほしいです。
- ・30年後、自分が年をとっても行きたい場所にして欲しい
 - ・施設間の移動が広島の路面電車並みに安価でスムーズ
 - ・家族で乗れるレンタサイクルで敷地内を移動可能
 - ・各施設はトイレ、レンタサイクル置き場を設置、休憩は一部の部屋を開放
 - ・地下鉄、基幹バス行き先案内を地図看板内表示又はQRコードでHPへ案内させ多言語音声案内させる
 - ・三の丸地区を謎解きさせてファンをつくる
 - ・名古屋帯と着物をレンタルさせ人力車で案内する、写真スポット毎に停留所を設置

〈市の考え方〉

- ・当地区の強みである災害に強い堅固な地盤やみどりを活かしつつ、地区内の連携強化を図るなど今あるものを伸ばす「進化」とともに、観光・交流機能を新たに導入するなど今ないものを付加する「変化」により、人口減少局面を迎える未来においても、成長と活力を生み続ける地区を目指していきたいと考えております。
- ・周辺地区からスムーズにアクセスでき、多様なモビリティがシームレスにつながり誰もが快適に移動できるとともに、訪れる人などが、まち歩きや憩い、出会い・交流など多様な楽しみを味わいながら、ゆっくり過ごせるウォーカブルなまちになっているなど、おもてなしが沁みわたる、居心地の良いまちを目指していきたいと考えております。また、初めて来訪した人でも親しみをもてるような地区の歴史や文化の発信をするとともに三の丸アイデンティティを感じられるようなまちづくりを推進していきたいと考えております。
- ・重要文化財の活用により歴史的建造物を体感できる場を創出するなどにより、あいち・なごやらしさを体感できるまちを目指していきたいと考えております。また、当地区のまちづくりをあいち・なごやへの飛躍へとつなげていけるよう、食文化やものづくり文化、伝統文化など名古屋市だけでなく、愛知県内の様々な文化・地域資源を幅広く体感できるコンテンツを集結させることなど、シビックプライドや三の丸への愛着が醸成されるよう、まちづくりを推進していきたいと考えております。
- ・名古屋城三の丸地区特有の建築規制等の見直しも視野に入れ、新しい建物と重要文化財や名古屋

屋城の歴史的建造物が調和し、風格ある街並みを感じられることができるなど、三の丸ならではの景観のあるまちを目指していきたいと考えております。

- ・具体的なまちづくりの内容については、今回皆様からいただいたご意見を参考にしながら、検討を進めてまいります。

将来イメージ 3件

〈市民意見の概要〉

- ・三の丸の活性化策として「ひらく」とあるが、「ひらく+いかす」を提案します
 - ・名古屋能楽堂～名古屋城（正門エリア・東門エリア）～文化のみちを歴史文化保全軸とする
 - ・名古屋の伝統的芸術・建造物等の保存ないし活用に資する
 - ・能や山車、明治大正期における名古屋の経済文化人の生活などの文化を保全・発信する
 - ・ナゴヤドーム～徳川園～IGアリーナ～名古屋城～栄～金山～名古屋国際会議場～熱田神宮を国際コンベンション軸とする
 - ・より大規模な国際コンベンション誘致をめざして機能させる
 - ・国際会議場（センチュリーホール）のほか、ナゴヤドームやIGアリーナも活用可能
 - ・中心である名古屋城以外にも徳川園・熱田神宮など日本の真髄にも触れられるプランが可能
 - ・名古屋城～（本町通）～広小路本町を都市アイデンティティ軸とする
 - ・名古屋の商人文化を現代に伝え、観光文化都市構築を先導する軸
- ・「Hisaya-odori Park と連続した公園的な雰囲気を出し、楽しみながら移動」とありますが、三の丸地区が接するのは久屋大通公園の北端です。栄地区の中心部からはそれなりに距離があり、従来の人流も比較的少ない場所であるため、単に空間を連続させるだけでは人は移動しないと考えられます。よって、三の丸側に人を「楽しみながら移動」させるに足る動機、つまり三の丸でしか得られない経験を提供する仕掛け作りを行うことが不可欠だと思います。
- ・名城公園（IGアリーナ）や名古屋城の来訪者を、三の丸を通して栄にまで歩いてもらえるよう、シンボル軸は最優先で整備した方がいいと思います。

〈市の考え方〉

- ・現行の土地利用や地域資源、周辺地区との連携等を踏まえ、地区のまちづくりを戦略的に推進するため、重要文化財を活かした景観づくりなどにより人が集まり、交流を生み出すまちづくりを推進しながら深度化を図っていききたいと考えております。
- ・シンボル軸については、名古屋城と栄地区との賑わいの連続性の確保ができるよう、名古屋市役所本庁舎、愛知県本庁舎を活かした景観づくりを目指していきたいと考えております。
- ・具体的なまちづくりの内容については、今回皆様からいただいたご意見も参考にしながら、めざすまちの実現に向けてできることから着実に取り組み段階的に進めてまいります。

《めざすまちの実現に向けて》

まちづくりの進め方 1件

〈市民意見の概要〉

- ・「公民共創のまちづくり」とありますが、民間には具体的にどのような役割を期待していますか。また、官庁施設の多い三の丸地区においてどのように民間の参入余地を生み出すことを想定し

ていますか。

〈市の考え方〉

- ・めざすまちの実現に向けて、地権者だけでなく民間、市民、学生など多様な主体とまちづくりを推進し、賑わい・交流といったまちの機能も増やしていけるよう、まず短期においては既存ストックの活用に取り組んでまいりたいと考えております。

まちづくりの推進体制 4件

〈市民意見の概要〉

- ・官庁街やビジネス街を活気あるようにした例としては、たとえば東京駅・丸の内エリアのいわゆる「三菱村」など好例がいくつもある。民間に託せる部分については民間の活力をうまく活用するよう「まちづくり協議会」を設定するなど、工夫が欲しい。
- ・名古屋市は音頭取りと方針に徹するべき。行政が“商売”を担うことは面白みのない、それこそ「武士の商法」になりかねない。
- ・三の丸チャレンジ来訪者へのアンケートの結果「憩える空間」が高評価であったというのは貴重な意見です。ただ、この結果一つで方向性を定めることはせず、アンケート対象者の属性の偏りを考慮しながら検討してほしい。
- ・多くの市民に関心を持っていただくことが一番重要だと思います。
- ・「基本方針Ⅱ多様な人々を惹きつけ、人が中心のまち」いいですね。でも、何かピンとこない気がします。住民の意見・思いが反映されていないのでは？と思います。市役所内部や「有識者」だけでなく、最初から住民参加で進められることを望みます。

〈市の考え方〉

- ・めざすまちの実現に向けて、まちづくりに関わる関係者が協働するとともに多様な主体が参画するまちづくり協議会を構築するなど、公民共創によるまちづくりを推進していきたいと考えております。
- ・まちづくりの推進においては、これまで三の丸に携わったことがない人や多様な世代の人々にもまちづくりに参画しやすい環境づくりにも配慮していきたいと考えております。

《その他》

その他 10件

〈市民意見の概要〉

- ・再開発事業で移転用地が出来ればの話ですが、丸の内中学校は三の丸の外に移転した方がいいと思います。跡地は公園や県図書館の拡張に使えば良いではないでしょうか。
- ・「歴史」や「近代レトロ」、「みどり」が「名古屋らしさ」として都心部ならびに市内各所のまちづくりに反映されていくことで、名古屋の都市イメージの向上につながると思います。
- ・再整備を行うに当たっては、経費面や環境負荷などを考えると、「一時的に移転し、建て直した後に再移転して、元の位置に戻る」というのは現実的ではないと思う。各機関には“完成後に元の位置に戻る、再々移転”ではなく“シャッフル移転”になることの理解を求めるべき。三の丸エリア内に遊休地が乏しい現状を考えれば、土地のやりくりはかなり厳しいものと考えられ、事前の関係者への調整は必須だと思われる。名古屋市の「調整役」としての役割、音頭取りを行う必要性は大きい。

- ・土地の利活用、「構想」の中に例示されたようなホテルやMICE施設など新たな機能を考え、ある程度の建物の高度化や集約化が必要だと思われる。
- ・その際、たとえば「国の機関」の縮小化などは、名古屋・愛知にとって期待すべき結果ではない。十分な協議が必要であり、きちんとした代替地やスケジュール等、示すことが重要だと思う。
- ・現状の「金シャチ横丁」は必ずしもにぎわっているとは言い難い部分もある。この「金シャチ横丁」を将来的には三の丸エリアに移していくぐらいの発想があってしかるべきではないか。
- ・白壁地区の建物が壊され普通の住宅地になりつつあるので、それを阻止して欲しい。
- ・できるだけプランを進めていくには愛知県庁や名古屋市役所の新庁舎移転や愛知県警察本部庁舎の移転、さらに中日新聞本社の建て替えならびに（新しい場所の）移転や名古屋に本社のある民間放送局の社屋移転、そして国立病院機構名古屋医療センターの建て替え再開発やあらゆるプロジェクトを実行したり、江戸時代の名古屋のまちをCGで再現する名古屋城資料館の建設もあわせてまちづくりに加えてください。名古屋城三の丸地区まちづくりは巨大ターミナルプロジェクトにひけを取らないプロジェクトです。
- ・名城公園の地は日本有数の御深井の庭、こちらも含めた総合整備計画も、観光の視点で見直すとか、念頭に置いてほしい。
- ・金シャチ横丁義直ゾーン東側の休憩所は、北館と南館に分けるなどし、金シャチ横丁への導線をふさがない形にする。
- ・南側には天王坊後園を鑑賞できるスペースを設ける。
- ・高さ規制は大胆に見直すべきだと思います。現在三の丸にある機能に加え、商業や観光などの機能、そしてもし名古屋が副首都になった場合は副首都の機能も三の丸に置かれることが想定されるため、今の高さでは対応が難しいのではないかと思います。

〈市の考え方〉

- ・ご意見として承ります。
- ・できることから着実に取り組んでまいります。